

令和7年度「地域学校協働本部事業」 川内村の取組事例

「川内村地域学校協働活動の成果と課題」(福島県川内村)

取組の概要や経緯

震災後、少子化が急速に進み、児童生徒の人間関係が固定化し、都市部との教育格差も広がっている。川内村では、学園・家庭・地域住民との連携協力のもと様々な体験活動の機会を通じ、地域社会全体で子どもたちを育てる取り組みを行っている。



内容

- むら探検や産業体験(米作り、蕎麦打ち体験、玉ねぎ収穫)を通して地域住民と触れ合い、新しい村の魅力を探求する。
- 放課後子ども教室での福島大学生(むらの大学所属)と玉川大学生による支援交流。
- 放課後子ども教室では、オンラインでのヤクルト工場見学、いわきFCパークでのサッカー教室、サマーショートボランティア体験など、様々な体験教室を行った。
- 村内5つの事業所で職場体験学習を実施。仕事を通じて村と関わり、生徒たちが地域との繋がりを感じることで、自ら地域に貢献する人材を育成する。
- かわうち興学塾の実施。個人の学習状況の把握と目的意識をもたせ、個に応じた学習課題に取り組む。



ポイント

- 地域文化伝承教室(コミュニティハウスにじいろ)が、学園と地域を繋ぐ架け橋となり、学園からの依頼に基づき地域学校協働活動推進員とともにスムーズな活動を推進している。
- 地域連携担当教職員との連絡会議を毎月開催し、活動状況・今後の予定などを共有することで、地域と学園の連携を密にしている。

成果

- 地域学校協働活動推進員の協力を得て、児童生徒と地域住民の交流の場が増えたことで、学校と地域の協力関係がより一層高まった。
- 健全育成プログラムを通じて、日々行う遊びから子どもたちの創造性・感性・体力の向上を目的とした活動を行うことができた。
- 村を盛り上げるためにできることはないかと生徒自ら課題を立て、新たな体験イベントを企画。(星の観察会)
- 放課後等の学習支援により、個の学習習慣の確立と学力の定着が図られている。

今後の方向性

- これからも、にじいろが学校のニーズを的確に掴む役割を持ち、地域学校協働活動推進員と連携し、地域人材やNPO・大学等の協力を得て、学校を支援する活動を強化し事業を実施する。
- 地域学校協働活動推進員がスムーズな活動ができるよう、毎月連絡会議を開催し学園・教育委員会・にじいろと情報共有を行う。
- 「放課後等の学習支援」における学力向上の測定値としては、アンケートを実施し学習意欲向上における評価を行う。